

## 謎解き「ゴッホと文化財」展 つくる文化∞つなぐ文化

そごう美術館（横浜駅東口そごう横浜店6階） 2021.07.31～08.31



「そごう美術館」では、文化財保護を進める上で抱えている課題は「公開すれば劣化が進み、保存を重視すれば文化財の価値を共有・伝承できなくなる」。

そのような矛盾を解決しようと、東京藝術大学と高精度の文化財複製「クローン文化財」の技術を開発し、昨年(2020)は、クローン文化財の意義を考える「東京藝術大学スーパークローン文化財展 最先端技術がつくる未来」を開催した。

この「スーパークローン文化財」は、現代のデジタル技術と東京藝術大学の伝統的な複製技術と感性を融合させて制作された複製技術で、高精度かつオリジナルと同素材・同質感を目指している。今回の第2段としての企画は、ゴッホを中心に「文化財を知る・楽しむ」をテーマに、オルセー美術館の油彩画、ボストン美術館所蔵の浮世絵、失われた文化財の再現作品、映像（アニメーション、制作過程）等の「約30点」を展示して、クローン文化財の活用を紹介している。

〈展示内容〉

第1章：文化の共有 ゴッホ人生、ゴッホと比較。

第2章：学習と創造 ①夜に魅せられたゴッホの作品に学ぶ「光」。

②重ねられた「色」の分解。③ゴッホが複製した世界/うつしの文化とクローンの文化財。

第3章：再生と未来 ①芦屋の《ひまわり》—蘇る文化財、②浮世絵アニメーション—ミライの文化財の内容で構成されている。

初公開で注目されるのは、「1945年に空襲で焼失したゴッホの幻の作品、日本にあった“芦屋の《ひまわり》”」で、作品の謎に迫ることである。

クローン文化財だから出来た作品では、「日本美術の影響 ジャポニスム」、立体再現「絵から飛び出した笛を吹く少年」、マネ、ドガ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ボナールの「オルセー美術館の名画」を再現している。

